



連携6大学
地域に生き未来に繋ぐ高度がん医療人の養成
文部科学省【次世代のがんプロフェッショナル養成プラン】採択事業



京都府立医科大学大学院保健看護学研究科

「ペインマネジメントに強いがん看護師」を目指す高度実践看護師養成プログラム

令和6年度研修会

がん患者における 心理社会的因子を含む痛みのケア

日時 令和7年3月19日 [水] 17:30～19:00

方法 Web開催 (Zoom) 参加費無料

対象 看護師 (病院・訪看)、大学院生、教員の皆様

プログラム

開会挨拶 京都府立医科大学大学院 保健看護学研究科
がん看護専門看護師コース責任者 **吉岡 さおり** 教授

講演 「**がん患者における痛みと心理社会的因子の関係**」

京都第一赤十字病院 緩和ケア内科 **谷口 彩乃** 医師

「**がん患者の痛みへの心理社会的介入を考える**」

京都第一赤十字病院 心療内科・緩和ケア内科 **岡本 恵** 公認心理師

閉会挨拶 京都府立医科大学大学院 保健看護学研究科
がん看護専門看護師コース責任者 **吉岡 さおり** 教授

多くのがん患者は、がんによる痛みや治療などによる痛みを有しており、ペインマネジメントは依然として課題となっています。とりわけ、病変や感覚神経の損傷を認めない慢性化した疼痛を不定愁訴として扱った経験は少なくなく、この心因性・非器質性疼痛は、患者のQOLを低下させるだけでなく、我々医療者との関係性までが危ぶまれる可能性をはらんでいます。

国際疼痛学会は痛みの機構分類において、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛に加え、第三の痛みとして痛覚変調性疼痛 (nociceptive pain) を提唱し、痛覚変調性疼痛を「侵害受容の変化によって生じる痛みであり、末梢の侵害受容体の活性化を引き起こす組織損傷またはそのおそれがある明白な証拠、あるいは痛みを引き起こす体性感覚系の疾患や傷害の証拠がないにもかかわらず生じる痛み」と定義しています。

痛覚変調性疼痛の機序については、いまだ十分に解明されていませんが、心理社会的因子が関係する痛みと介入方法について学び、よりよいペインマネジメントについて皆さまと考える機会にしていきたいと思っております。

申込方法



申込用QRコード

QRコードまたはURLから登録フォームにアクセスし、必要事項(氏名・所属・メールアドレス)をご記載の上、令和7年 **3月12日(水)**までにお申し込みください。ご登録後、アクセス先URL等をご連絡させていただきます。

▼登録フォーム

<https://forms.gle/WWTPxSxCvwKe9bTTA>